



いとう  
伊藤

# おさむの市民ニュース

# ホット・ホット・越谷

発行責任者：高橋 正久

〒343-0838 越谷市蒲生三丁目七番七号 TEL 048-985-4826 FAX 048-989-2397  
E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL <http://www.ae.wakwak.com/~osamuchan>

平成14年4月1日発行 No.1

綾瀬川は、埼玉県桶川市にその源を発し、東南に向かって流れ、八潮市で毛長川に合流して東京都足立区に入る、全長約47km（埼玉県内約39km）の河川です。古くから蛇行が激しく、上流部では川筋が幾筋にも分かれて流れ、流路が定まらなかったので「あやしの川」と呼ばれ、そこから「綾瀬川」という名が付いたと考えられます。

昭和55年から15年間続いた全国一級河川における水質ワースト1からの脱却も実現することができ、一昨年には、5羽のオオハクチョウもやってきました。

## 綾瀬川の風景

舟遊び  
綾瀬の月を  
領しけり

佛人

高  
濤

虛子

にくらいのも当然である。しかし  
これでは何時まで経つても状況は  
変わらないし、問題の解決になら  
ない。そんな中、若さと行動力、意欲的な「おさむ」さんが、地方  
政治に「チャレンジ」するという  
このことは、一人「おさむ」さん  
に止まらない大きな意味がある。  
地方政府の世代交代、活性化、新  
しい風を入れることによって、議  
会を変えていくことができる。  
私達市民も、「議員」を選ぶ一  
つの基準として、「人」は勿論の  
こと「若さ」も考えてみることが  
大切である。

地方議会の議員を見ていて、いつも感じるのは人材不足である。理由は、いろいろあるが、一つは圧倒的に高齢化していて、若い人が少ないことである。たしかに、「政治」や「議会」に魅力がないことや、いざ「議員」になろうとなれば、「地盤・看板・カバン」と言ったことを準備しなければならないこともある。

我が家には、五才、四才、一才の三人の天使（？）達がいる。年子の二人は遊びたいばかり。一才の下の子は、何でも口の中に入れてしまい、三人とも、一時も目を離すことが出来ない。買い物をするのも一苦労。まるで曲芸師の様に自転車の前と後に子供を乗せ、一人は私の背中に。

ジャジャーン、自転車の四人乗り。（よくお巡りさんに呼び止められないものだナ）帰りには、前カゴは買い物をした沢山の品物でいっぱい。トイレットペーパーは後の子に持たせて家路を急ぐ。

午前中に買い物が出来なかつたらさあ大変。午後の買い物は、子供達が眠くならないうちに終わらせないと、帰りの自転車は、三人が居眠りを始めたまま。船をこぎはじめるとき、ハンドルは取られるわ、後の子は後に首が落ちていくので自転車から転げ落ちるんじやないかと、ハラハラ

夜の九時半、今日も一日が終わつた・・・。我が家の天使達がスヤスマヤと寝息をたてはじめる。寝顔は天使なのに、何故昼間は小さな悪魔に

## 「子育て日記！」

するわ、眠つてしまつた背中の子は力が入つていないので肩に食い込むわ、で悲惨な事になつてしまふ。三十才にもなつていないので、子育てに追われて鏡を見る暇もなく、化

につけさせることはもとより、自ら学び自ら考える力（総合的な学習）などの生きる力を育む」と言うことです。

もに、豊かな感性や社会性などを身につけさせることが出来るよう、地域社会のコミュニティーや家庭生活をもう一度見直すことが必要ではな

「アーチ」の教育

粧つけのない顔で平氣で公園に行き紫外線を浴びて、ただでさえ地黒なのに、日焼けサロンに行つた様に冬でも健康的に焼けている。毎日がわただしく過ぎていき、もしや、このまま気がつかないうちに、私もおばさんになつてしまふのかしら・・・と、不安になるけれど、こうして天使達の寝顔を見ていると、昼間の忙しさも大変さも忘れて、幸せな気持ちになれるから不思議。

頑張るお母さんは、こうして又明日も力強く子育てを続けるのです。

今月から新学習指導要領によつて  
学校週五日制が実施され、毎週土曜  
日は休校となります。

が重要です。ところが、こうした新学習指導要領にも「授業時間と教科内容の削減による学力の低下」や、「教科書を用いらず子供の関心や体験を重視する総合的な学習には、個々の学校・担任教師の裁量に違いが生じる」など様々な問題を抱えています。しかし、この問題から目をそらすことは絶対に許されることではありません。

私達大人は、学校だけではなく、家庭や地域社会においてもこれを教育の場としてとらえ、子供達の思考力・判断力・表現力などの能力とし

# 一私の街の子供達一



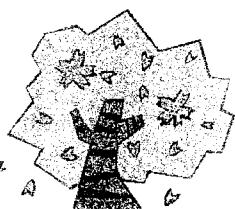
## —蒲生第二小学校の下校風景—

# 居酒屋での こんなひとコマ

いやあ一鈴木宗男っていう政治家はとんでもねえ嘘つきだけど、まさか追及してた社民党の辻元までつるされるとはねえ。でも、事実なら大変な犯罪ですよ。確かに国から支払われる政策秘書の給与をごまかしちゃ、きれい事を言っても犯罪だよな。でも、なんか可哀想な気もするな。一生懸命やってたのに・・・ですね。これで、鈴木宗男と加藤紘一の追及が弱腰になるんじゃないですかね。それはないと思いますよ。昨日のテレビで野党議員が、『問題があれば与党であれ野党であれ関係なくキッチリ追及する』って言ってましたからね。これじゃいつまで経っても政治不信が続くだけだよ。小泉さんでも世直しは出来ないかもな。その小泉さんも、真紀子さんにそうとうバッシングされてますね。でも真紀子はマスコミにあんな発言しちゃダメだよな。『小泉さんは私にジェラシーを感じてる』なんて言うと、男女関係のもつれみたいだよ。日本の恥を外国にさらけ出して平氣なのかね。国民的人気があるから何を言ってもかまわないと勘違いしてるんですかね。まあ当分の間は世論が真紀子を支えている以上、自民党の中にも真紀子をバックアップする連中がいると思うけど、時間が経って真紀子にボロが出てきたらその時はお仕舞いだね。お仕舞いとは？そりやあ自民党にいられないから何人か引き連れて離党するか、若しくは自由党あたりが受け皿になって真紀子と手を組むんじゃないの。国民もそれを期待しているのかもしれませんね。それは無責任のような気がしますね。なぜなら、今まで小泉内閣の支持率が高かったのは、国民が小泉さんに希望を持ったからであって、『構造改革なくして景気回復なし』を最後まで見守る責任があるんじゃないかと思うんですけどねえ。いつになんて景気回復の兆しが見えないから国民もいらだっているんだよ。所詮、小泉も『同じ穴のむじな』なんだよ。でも、小泉さんの代わりがつとまる政治家がいないのも現実ですよね。真紀子に一旗揚げてもらうしかないな。笑い・・・・！



昔から居酒屋で一番嫌がられる話は政治の話でした。しかし、最近の話題はもっぱら政治だとか。この前の国会中継は視聴率がなんと16%もあり、国民も政治に関心を持ち始めた様に思われます。理由はともあれ、政治を身近に感じることはとても大切な事ではないでしょうか。これからも、国民一人一人が政治に関心を持ち、そして、参加し、明るい社会を築きあげていきましょう。



# 伊藤 おさむの ～バリアフリー検証～

私は、週に4日リハビリ（歩行訓練）のため、越谷市北後谷にある埼玉県民健康福祉村へ通っています。水中での歩行は、浮力があるためリハビリには最適ということで訓練を続けておりますが、プール入水後、汗だくになりシャワールームへ向かいます。県民の施設だけあって、立派なシャワールームが1つ、そこには完備されています。しかし、障害を持つ人も多い施設ですので先客がいた場合、当然の事ながら待っていなければなりません。足の悪い方ならおわかりでしょうが、立ったまま待つということほど辛いことはありません。然らば、そのシャワールームの脇に一つだけ小さな椅子を置いたらどうでしょうか。たったそれだけでも障害を持つ人からすればとても助かる事なのです。政治家がよく『障害者の立場に立って』と言いますが、障害を持たない政治家が障害者の立場に立てるわけがありません。ここで政治家が障害者の立場に立って考えたなら、もう一つシャワールームを作ると言う発想になるでしょうが、それこそが税金の無駄遣いなのではないでしょうか。市民の税金を有効に使うには、先ず、障害者の意見を聞くことから始めなければなりません。今の政治家には『聞く耳を持つ』ことが大切なのです。

次に、ファミリーレストランへ出かけたときに気付いたことですが、越谷市の外食産業でバリアフリー対策をしているところはまだ少ない様です。車椅子で入れるスペースを設けているレストランは、数えるほどしかありません。例え車椅子で入れるスペースがあったとしても、ドアが自動でなからったり、タイル張りの入り口が滑ったりして、なかなか容易には入ることが出来ません。さらに介護人や付添人がいなければ入ることが出来ません。その為には例えば出入り口にインターホンを取り付けたりするなど、行政側が様々な『声を聞き』アイディアを出し合い、そして、指導していかなければならぬと思います。

行政とは法の執行機関であり、バリアフリー対策には進んで市民のニーズにこたえていかなければならないのではないでしょうか。

最後に、今までの市民参加とは、役所が提案、役所が実行、参加するのが市民でしたが、これから時代は、アイディア・発想・発案の段階からともに計画していくのが、本当の市民参加の街づくりだと私は思います。

# ～ガンバルマン紹介～

今回は、のつけ（発行第一号）と言うことで、伊藤 おさむ本人を紹介させていただきます。六年前に現在の病気（特発性大腿骨頭壞死症）を告知され、半年間挫折をあじわいました。しかし、その間自分の人生を振り返る時間が持てました。「今まで自分勝手に生きてきた人生は何だったんだろう。これからどうすればいいんだろう。」など真剣に悩み苦しんだ結果、「社会に貢献する」と言う結論に達したのです。そして二度にわたる手術を終え、現在は地域政治に深い関心を持って取り組んでおります。これから私は障害者の立場から行政が進めているバリアフリーについて検証するとともに、将来の不安を抱えている高齢者に笑顔を取り戻し、私達の子供や孫に夢を与えられるような、そんな街づくりを目指し、さらには、地域が活力を取り戻すため、若い力を十分に發揮してまいりたいと考えております。

